

美術館

vol.94

だより

Houki Museum Information

イメージの力

植田正治の「ひと」と「もの」

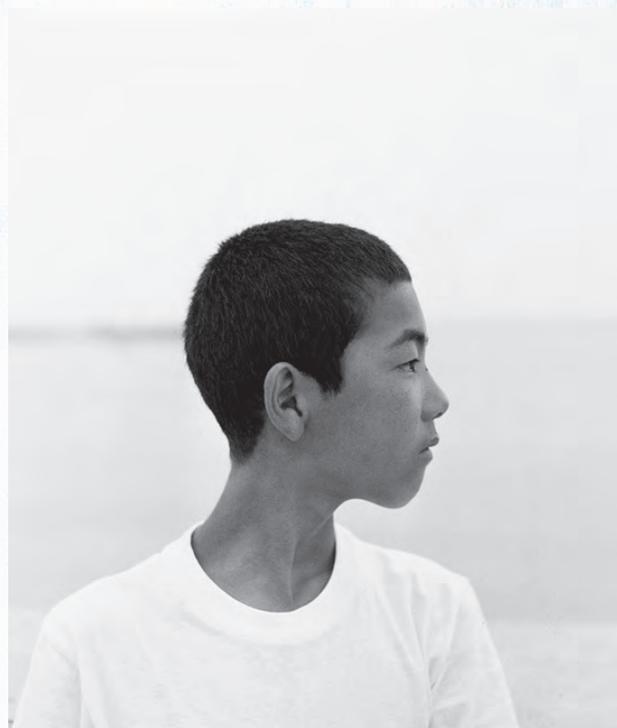
6月13日(土) — 9月6日(日)

「ひと」でありながら造形的でスタイリッシュ。「もの」でありながらなぜか愛おしく、ユーモラス。植田正治の写真にこのような印象を持たれる方も多いのではないのでしょうか。

かつて植田は、インタビューの中で子どもたちを「オブジェとして扱うくらいの気持ち」と語っています。「オブジェ」とは、物体や対象を意味するフランス語ですが、1910年代からヨーロッパの芸術運動の中で、特別な意味を持つようになった言葉です。何気ない「もの」やおよそ芸術的でない「もの」に、いわば芸術的意味を与える表現がみられるようになったのです。

1930年代、植田が写真を始めた当初から、ヨーロッパの写真家たちのこのような作品表現と出会い、自身の中に吸収し、生涯を通じて「オブジェ」的な表現を強く意識していたように感じます。子どもを「オブジェとして扱う」という植田の言い回しは、極端であり時に誤解もされますが、写真からは、被写体が「ひと」であっても「もの」であっても、その「まなざし」が人間的な魅力に溢れていることは十分に感じ取ることができます。つまり、「ひと」を「オブジェ」として扱うことで新たな魅力を引き出し、逆に何気ない「もの」は、撮る側の「まなざし」しだいで、生き生きとした輝きを放つ「オブジェ」として表現できることを植田は言いたかったのかもしれませんが。

今回の展覧会は、「ひと」と「もの」をキーワードに、初期から晩年までの作品を概観し、植田のイメージが持つ力、そして魅力を浮き彫りにします。



シリーズ〈小さい伝記〉より 1974年-85年

▼ 切り取ってご利用ください。

町民無料招待券

イメージの力
植田正治の「ひと」と「もの」

平成27年 6月13日(土) — 9月6日(日)

※本件1枚ご持参で1世帯様無料にてご覧いただけます。

伯耆町立植田正治写真美術館 TEL: 0859-39-8000
伯耆町須村353-3

問い合わせ先

伯耆町立植田正治写真美術館
TEL: 39-8000

メール | bijyutsukan@houki-town.jp

ホームページ | <http://www.japro.com/ueda/>

◆ 開館時間: 9:00 ~ 17:00
(最終入館は16:30)

◆ 休館日: 毎週火曜日(祝祭日の場合は翌日)